

病害虫予報AIでかんきつの被害を未然に防ぐ！ 病害虫被害減と生産者の所得向上を実現

採択事業者名 株式会社ミライ菜園

コンソーシアム構成員 株式会社OCファーム | HAPP | JAえひめ中央



県内拠点設置 ない

所在・役割 所在/役割

事業概要

1. 事業の狙い

・病害虫被害によって、平均約25%にのぼる収量の定常的なロスが発生しており、さらに気候変動の影響で勘と経験が通用しなくなり、発生タイミングの予測が困難になっている。AI技術を活用し、勘と経験を補う病害虫発生予報アプリを開発する。

2. 県内のターゲット事業者

専属のコンサルタントを持たない農家や作物部会員、および農家に日々指導をしている営農指導組織(JA、資材メーカー等)。

3. 紐づく課題

県内では、特に果樹カメムシ類の発生が多く、またその園地への飛来タイミングの予測が難しかった。柑橘やキウイなど多くの果樹が被害を受けた。



4. 実施内容

7-8月: 柑橘の病害虫についてヒアリング、情報収集
7-9月: 柑橘の病害虫予報AIの開発とアプリへの組み込み
10月: 実装先への試作版アプリインストール、説明会実施
11-1月: 毎月の勉強会、利用状況のフォローアップ、UI改善に向けたフィードバック
2月: 成果報告の取りまとめ&改善要件の開発への反映

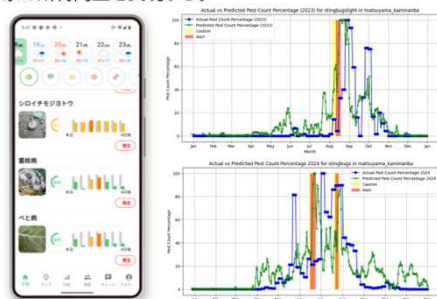
■検証項目

- ・かんきつの重要病害虫の特定
- ・柑橘の病害虫予報AIの開発と精度検証
- ・AIの予報結果と最適な防除タイミングとの照合
- ・病害虫発生マップの機能性について検証



解決策(サービス/プロダクト)

かんきつの病害虫発生タイミングを予測し、事前にお知らせするAIアプリ。予防的防除を通して被害を削減し、農家の所得向上を実現する。



デジタル活用の要素

取得データ

病害虫AI予報を活用した予防的防除の実施。
病害虫の発生履歴、生産者の農薬散布履歴等のデータが収集される。

データ活用による考察・示唆

生産者においては、予防的防除による病害虫被害減に加えて、農薬散布回数の最小化、省力化。
JA、自治体普及課においては日々の病害虫発生状況の共有、現地調査の結果の共有に活用いただける

成果と今後

成果(含む想定)

	実装前	実装後(～今年度末)		今後3年の見込み (～2028年3月末時点)	
経済効果	病害虫被害の20%減 生産者の所得向上5%	➢ 105万円		➢ 0.7億円	
KPI進捗	【KPI ①】 アプリを継続的に利用しているか WAU(10-11月の防除時期)	70%	結果サマリ	77.5%	700万円(生産額)×200(名) ×0.05(単収増) 春夏の防除シーズン含め通年で検証。
	【KPI ②】 病害虫の発生を自発的に記録してくれるか	80	結果サマリ	71	
	【KPI ③】 予防的防除により単収アップができるか	5%	結果サマリ	0.5%	
デジタル人材輩出	アプリを活用した 生産者 JA指導員 県職員	【アクティブ】 アプリ活用中	40	【アクティブ】 アプリ活用中	300
		【ポテンシャル】 アプリ活用部署の職員 活用地域の生産者	10	【ポテンシャル】 アプリ活用部署の職員 活用地域の生産者	500
		【関心層】 勉強会参加者	140	【関心層】 勉強会参加者	500
		定性的/非連続的な価値 (具体的な行動変容/組織変容など)		具体例 農水省のスマート農業関連補助金のコンソーシアムを県内生産者、防除所等と組成し、開発と県内普及の加速	

新規実装・協業に至った事例 ※県内

新規実装	株式会社OCファーム	トライアル利用
新規実装	HAPP	トライアル利用
新規実装	JAえひめ中央	トライアル利用
新規実装	公共団体A	トライアル利用、現地調査で活用

その他の“for 愛媛”要素

アプリの愛媛価格提供
JA、農業法人向けアプリに関して、20%OFFの特典提供
個人農家は愛媛価格で当面無料提供
現地雇用の創出
愛南町在住のエンジニアを起用見込み。